

2023 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金  
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長  
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [ 蓼 沼 安 路 ]

学年・組・番号 [ 3 年 G 組 14 番 ]

研究課題: サイクルトレインの活用プランの提案

(英文) suggestion of the way to make efficient use of cycle train

## 研究概要:

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200~400 字で記入してください)

昨今自動車が増加する中、鉄道観光の需要は減少している。特に私の住む千葉県の内房地域はアクアラインや館山自動車道などの開通により、鉄道の需要減少とそれに伴う利便性低下が著しい。しかし、鉄道は交通弱者と呼ばれる学生や高齢者の足となっており、利用者の回復は急務であると考え。そこで、本研究ではそれらの現状を打開する策として考えられるサイクルトレインの導入事例と、内房地域に存在する観光地の調査を行い、それらの分析結果によって、内房地域におけるサイクルトレインの活用プランを作成、提案し当該地域については同様の条件下にある地域におけるサイクルトレイン導入の一助とすることを目的に研究を行った。

## 研究成果:

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200~400 字で記入してください)

本研究では、まず現状のサイクルトレインについて実施形態やハード面整備・ソフト面整備の分析を通して現在のサイクルトレインの傾向を調べた。その結果、現在のサイクルトレインの特性として、「手軽に導入できること」が求められることを明らかにした。そのうえで、房総地域において、夕日と海を眺めることができ、鉄道路線が並行している道路を中心とし、それに加えて複数のプランを用意し、サイクルトレインを含めた観光プランの提案を行った。そこで、コストカット案として方向を一方通行に限定することを提案した。また、鉄道と並行した道路をサイクリングルートとすることで、鉄道駅を休憩所として活用できるとした。これは現在あるレンタサイクルを一か所にまとめることができるというメリットも有していることを明らかにした。これにより、これまで提案されてこなかったサイクルトレインのサイクル・ツーリズムにおける活用方法を具体的な観光プランを通して提案することができた。

研究者: (以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 蓼 沼 安 路

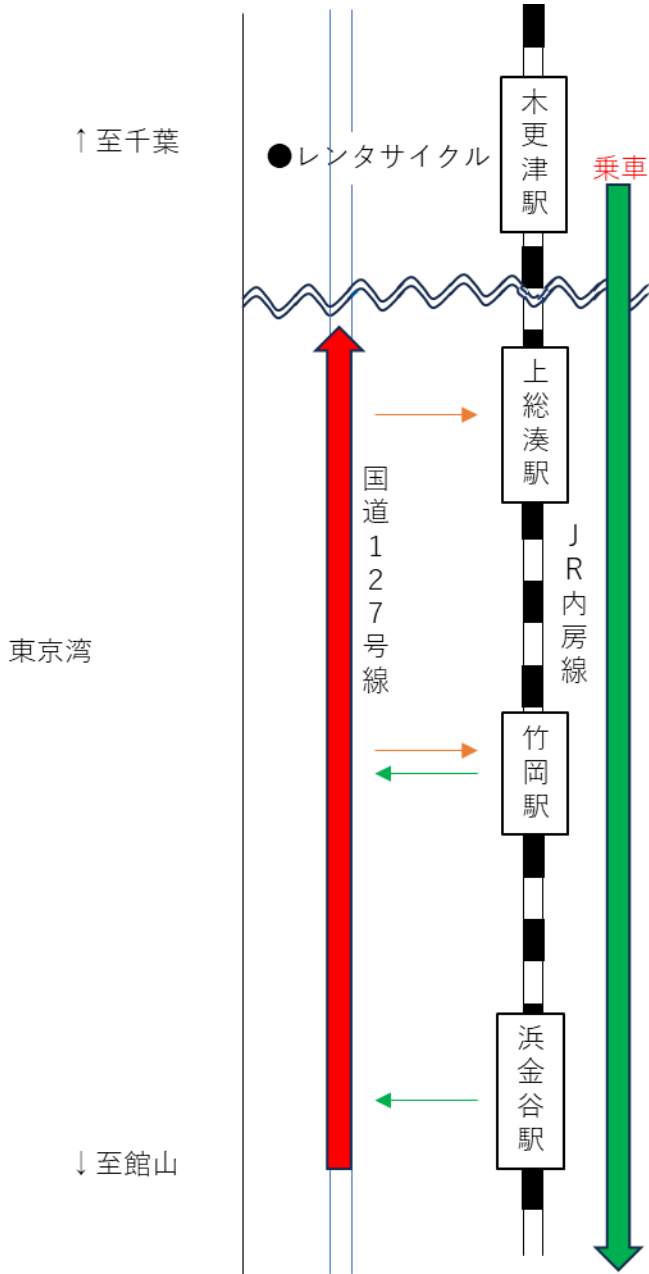
研究分担者

担当教諭 本 木 弘 悌 (受給額: 15000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します  
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



以上